

第66次 神奈川県教育研究集会

かながわ教育フェスティバル2016



横浜市西区藤棚町 2-197

神奈川県教職員組合
発行人 芹沢 秀行
編集責任 臼井 千浪



http://www.ktu.or.jp

No.713

2016. 11. 22

かながわ教育
フェスティバル2016

那谷屋正義さん
に会いに行こう!

ちよっと拜見地区教組

原子力空母ロナルドレーガン
母港撤回を求める全国集会

さようなら原発
さようなら戦争大集会

県教研in湘南

湘南地区を会場として開催した第六六次神奈川県教育研究集会「かながわ教育フェスティバル2016」は、多くの参加者を集め、盛況のうちに終了しました。参加者からは「分科会それぞれに、他地区の実践を知るとともに、日頃の実践を振り返ることができた」「明日からの授業に活かせる内容だった」等、多くの感想が寄せられました。神教組は、教職員や保護者、地域住民等とともに参加し(ひらく)、さまざまな立場から教育について語り合い(つなぐ)、子どもたちの豊かな育ちと学びを支えるために結束できる(むすぶ)教組へと発展することをめざしています。今次教研については、各地区教組や、運営担当者および参加者等からの意見をふまえた総括を行い、引き続き「参加してよかった」と思える、明日への活力につながる集いをめざします。

全体会

一〇月二五日、藤沢市湘南文化センターを会場とした。オープニングイベントでは、地元藤沢市湘南台を拠点とする「オリラニフラスタジオ」の子どもたちによるフラダンス



オープニングイベント
〔オリラニ フラ スタジオ〕の子どもたちによるフラダンス

によるフラダンスが披露されました。演技に集中する真剣なまなざしを通して、地域における子どもたちの育ちの姿を会場全体で共有することができました。開行式で、芹沢執行委員長は、この間の青年や中学生の痛ましい事件の背景に「彼らの居場所が極めて限定的であること、貧困や雇用など、今の日本社会が抱える課題が彼らに多大な影響を与えていること」があるとし、「現場から現在の子どもの置かれていく状況を明らかにし、私たち教職員が解決にむけてどのようなとりくみをしていく必要があるのか、今次教研を通して、真摯に討論



記念講演 講師 副島賢和さん(昭和大学大学院准教授)

参加者から

「子どもに寄り添い、その子の背景も知るために、アンテナを高く持つことの大切さ」等について熱く語られ、「教育関係者だけでなく医療や福祉等と連携し、チーム



が大切であること。その場合、子どももチームの一員であり、みんなで困難や課題について話し合っていくようなチームを作っていくたい。」と締めくくられました。

は、「教員として大人として人間として、人とかかわるために大切なことをたくさん教わった」「教員という仕事は素直な仕事だと改めて感じた」「子どもの声を聞く大切さ、子どもの心を分かつとうとする努力をやるべきではない」「心に響いた、講師が一生懸命に話す姿に感動した」等の声が多数ありました。

チームで課題解決にあたること、互いに実践交流することの重要性を改めて考えさせられた。等の感想が寄せられました。第六七次教研へむけ、分会、地区教研でのさらなる議論が期待されます。

また、来年二月に開催される全国教研では、分科会から推薦されたレポート(神奈川県からは二九本)をもとに討議に参加します。県教研の成果についてとを期待しています。

分科会

分科会は一〇月二九日、茅ヶ崎市立茅ヶ崎小学校を会場に開催しました。今次は約一、〇〇〇人の参加者が集い、二二三本のレポートをもとに二三分科会(四つの分科会で分科会を実施)に分かれ、日頃の教育実践をもとに報告、意見交換、討論が熱心に行われました。

各分科会では、学び合いや伝え合いなどに関するレポートが数多く見られるとともに、子どもが主体的に学ぶための教材開発やグループ活動を取り入れたとりくみ等が報告されました。

また、若いレポート報告者や傍聴者も多く、共同研究者やベテラン参加者からアドバイスももらっている場面も見られました。具体的な教材の展示、プレゼンテーションや動画等を映写しての発表、ワークショップ、グループ討議を取り入れるなど、運営を工夫する分科会もありました。参加者からは、「初めて県教研に参加し、学習をつくる視点が広がった。ぜひ来年も参加したい。」「子どもの実践例は大変参考になった。元気がもたらえる分科会だった。」「教職員が、



第12分科会 幼年期の教育と保育問題



第8分科会 技術・家庭科・職業教育

特別分科会

●ワークショップ

「授業のネタ20連発！」
ワークショップでは、今度も「授業のネタ20連発！」をテーマに、次の四つの講座を開催しました。

「仲間づくりゲームのネタ」(大井町立大井小学校・酒井大輔さん)、「楽しく科学体験」(世界の見え方が変わる理科学習) (川崎市立宮前小学校・横山裕子さん)、「図画工作・美術指導のネタ」(茅ヶ崎市立松浪



ワークショップ「シャボン玉遊びを盛り上げよう」



ワークショップ「仲間づくりゲームのネタ」

小学校・阿部ちひろさん、「シャボン玉遊びを盛り上げよう」(理科ハウス・森裕美子さん、山浦安曇さん)

第一講座「仲間づくりゲームのネタ」では、参加者全員とともに、ゲームを紹介し、仲間づくりの大切さを肌で実感できる講座となりました。第二講座「楽しく科学体験」(世界の見え方が変わる理科学習)では、科学体験を紹介していただき

える教材を一人ひとりに用意していただき、参加者も実践しながら、わかりやすく楽しい講座でした。第三講座「図画工作・美術指導のネタ」では、参加者全員で筆を握り、小さなプロットに思い思いの色を着色し、鮮やかな作品づくりを楽しみ講座となりました。

第四講座「シャボン玉遊びを盛り上げよう」では、シャボン玉を大きくしたり、割れにくくするなどの工夫を紹介していただきました。参加者からは、「学級目標と関連させて活動することの大切さを改めて知った。子どもも先生もすごく楽しい活動だと思ふ。」「お土産までいただいて、すぐに教室で使えるネタだった。子どもたちの目が輝くのが想像できた。」「こんなに着色活動が楽しいとは思わなかった。すぐにでもできそう。」「シャボン玉があるんなら大きくできるのはすばらしい。子どもたちが喜んでくれるので、すぐにでも実践したい。」等の感想がありました。

●シンポジウム
「子どもたちの生活の中から子どもの貧困を考える」

シンポジウムでは、コーディネーターに渡邊幹夫さん(藤沢市立中里小学校)、シンポジストに佐藤有樹さん(川崎若者就労自立センター「ブリュッケ」)、山本陽介さん(藤沢市立湘南台中学校)、佐野恵梨香さん(藤沢市立石川小学校)、古谷泰三さん(藤沢市PTA連絡協議会)を迎え、「子どもたちの生活の中から子どもの貧困を考える」をテーマにして、シンポジストを中心に、困難な境遇の子どもに寄り添う支援のあり方を考えていきました。また教育現場からの

実感率を出し合いながら、話し合いを深めました。シンポジストだけでなく、参加者も交えながら意見交換をすることで、私たちができる子どもへの支援を考えられる会となりました。参加者からは、「教員になるまで貧困問題についてよく分からなかった。これからは、支援機関などと連携を深めたい。」「多忙で新聞や世の中の動きに対して関心が薄れている。知っておくことが子どもたちへの支援につながる」と改めて感じた。「貧困問題がこんなに学校に入ってきているとは思わなかった。子どもたちの小さなサインを見逃さないようにしたい。」等の



シンポジウム「子どもたちの生活の中から～子どもの貧困を考える～」

展示ブース

「ひらかれた教研」のとりくみの一つとして今次教研でも「展示ブース」を開催しました。各団体の教育諸活動の紹介から、新たな視点で教育について考える場となっており、次の八団体の参加がありました。

「ひらかれた教研」のとりくみの一つとして今次教研でも「展示ブース」を開催しました。各団体の教育諸活動の紹介から、新たな視点で教育について考える場となっており、次の八団体の参加がありました。



自治労藤沢市職員労働組合
「環境教育・家庭から出されたゴミの行方等教材展示」



神教組養護教員部・栄養教員部
「健康教育、食教育に関する教材・教具の紹介」

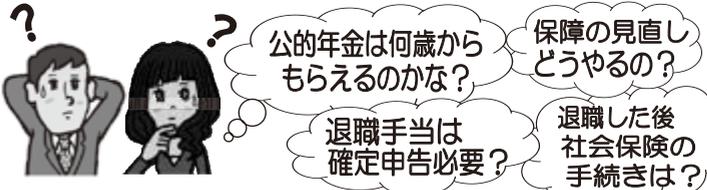
「金属チタニウム労働組合」の紹介、中央労働金庫神奈川県本部「消費者教育や金融教育の資料等の紹介」、教職員共済生活協同組合神奈川県支部「防災教育、減災教育の紹介」、神教組養護教員部・栄養教員部「健康教育、食教育に関する教材・教具の紹介」

「ゴミの行方等教材展示」東邦チタニウム労働組合「金属チタニウム労働組合」の紹介、中央労働金庫神奈川県本部「消費者教育や金融教育の資料等の紹介」、教職員共済生活協同組合神奈川県支部「防災教育、減災教育の紹介」、神教組養護教員部・栄養教員部「健康教育、食教育に関する教材・教具の紹介」

無料 退職予定者向けセミナーのご案内です♪

あんしん むすぶ 教職員共済

退職に関して、疑問な点や、不安な点はありませんか？



公的年金は何歳からもらえるのかな？

保障の見直しはどうやるの？

退職手当は確定申告必要？

退職した後 社会保険の手続きは？

退職後の公的年金、社会保障についての説明が、『非常にわかりやすい!!』と、毎年ご好評を多くいただくセミナーです。例年、定員以上の申し込みをいただきますので、ご予約はお早めにお申し込みください!!

講演 『退職後のライフプランを考えよう』

1級ファイナンシャル・プランニング技能士資格を持つ講師が、退職後の公的年金、社会保険、保障の見直し、退職手当の運用まで、わかりにくい内容も、丁寧にわかりやすくご説明いたします!

開催日程・場所

ご好評のセミナーのため、急遽、1月開催を実施することになりました!

2017年1月7日(土) 10時00分～ 神奈川県教育会館 4階ホール

※参加ご希望の方は、12月2日(金)までに、FAXか郵送で参加申込書をお送りください。(当日消印有効)
※定員になり次第、締切になります。その場合は、ご容赦ください。

退職に関する疑問点、全部スッキリ解決させましょう!!

資料請求、お問い合わせはこちらまでお気軽に♪

〒220-0053 横浜市区藤棚町2-197 神奈川県教育会館内 教職員共済生活協同組合 神奈川県事業所

TEL 045-242-6660

FAX 045-242-3881



熱く語る那谷屋さんに聞き入っています

—那谷屋さんが議員になられたきっかけは？
 教育課題は議会レベルで解決しなくてはならないことが相当あります。市・県・国それぞれが学校現場の声をしっかりとあげ、それが反映される予算なり施策なりにならなくてはいけないと、自分が現場にいるときに強く感じました。誰かが議会でしっかり意見を言わなくてはならないという立場に立つと、退くわけにはいきませんでした。

—今までの議員生活で感じた苦労は？
 日々苦勞の連続です。同じ会派の中にもさまざまな考え方をを持った議員がいます。私の役割として、学校現場の願いや日常の苦勞を、広く議員のみなさんに理解してもらおうというのがあります。一人でも多くの方に学校現場の思いを伝えていきたい、その道筋に苦勞があると言えはありますね。それと、国会には与野党の駆け引きがあり、この法案を通したいと頑張っているも流されてしまうことがあります。こういうのもつらいですね。

七月に行われた第二回参議院議員選挙において一七万票を超える得票で三選を果たした那谷屋正義さん。横浜市での教員経験や組合役員経験を基に、私たちの代弁者として日々奮闘されています。今回は、臨時国会が開かれている「多忙の身にかかわらず青年層の教職員の想いや疑問に答えていただきました！」

インタビュー
 三浦半島地区教組
 松本 純子 さん
 檀上 翔太 さん

—そういつた話をされているときに、相手の思いや本音を聞き出すコツはありますか？
 与野党対立の中では本音を聞き出すのは難しいです。きつと無理でしょう。それでも例えば「インクルーシブな社会をつくる」というような方向性については一致したとくみかみはかれます。一人ひとりの関係性を築いていくことが大切です。

—学校現場出身の議員として、良かったと思つたことは？
 私も現場を離れてからずいぶん長くなってしまいました。それでも現場を知っているというところは説得力が違いますね。また、学校現場のみなさんから率直な声を寄せていただいたものを基に質問をするというところは、他の議員にはできません。これは私の最高の武器になります。

—すぐよく分かりますね。それに組合員の声というものはどういつた意味を持ちますか？
 もちろん、それがすべてといつても良いくらい大切なものです。ただ、中には全体的でないものもあります。組合員の声は、私なりに判断は行うものの、すべて糧となっていることは間違いないと思います。

—議員としての今後の願いや夢は？
 実現させなくてはならない願いとしては、もう一度政権を取らなくてはなりません。その上で具体としては、今年八年目になる教員免許更新制をなくしたいと思つています。人事評価制度と連動して避けてはならない目標ですが教職員一人ひとりが自分の目標を明確に持つというところは決して悪いことではありません。自分自身の財産になるような制度にしていかなくては

那谷屋正義さんに会いに行こう!

—はいかがお考えでしょうか？
 民進党内でこのことについて議論するときに「現場の教職員は政治と聞く」と萎縮する現状があり、無関心に見える「現場」といふ話をしました。本当は無関心ではないと思つています。何か言おうものなら、自分がどうにか言ってしまうのではないかと不安感が大きいのです。しかし、主権者教育を充実させようとなつた時に、授業の中でどのように実現していくのか、このカギは教材研究だと思つています。そのことによつて、教職員の意識が改善されていけばいいなと思つています。そのためにも萎縮しない条件整備をしていく必要があります。どのような教材を



インタビュー後の打ち解けた3人での記念写真

—今回文科省が示した「育成指標」と現在行っている「人事評価制度」については目的が違ひます。
 おつしやる通りです。目的が違うということが明確になるような附帯決議を入れさせる必要があります。

—続いて、政策理念について伺います。「主権者教育」が昨今取り上げられるようになりましが、それを行うはずの青年層教職員の政治意識が高くないという課題があります。これについ

—学校での主権者教育、政治的教養を育むという話ですが、それ以前に私たちが一人の大人として家庭で自分の子どもたちと政治について話してきたかと言われると、語ってきいていないですね。
 その通りです。家庭での政治的な話というのは、できるだけ触れないようにしてきた文化があるのかもしれないですね。社会全体、私たち大人が頭を切り換えてはならない時がきているのだと思つています。

—福祉も子育ても含めて社会保障だとすると、他の国では「社会保障税」というようなものもありです。財源はどのようにお考えですか？
 「大きな政府、大きな福祉」という北欧の国もあります。日本は小泉政権以降「小さな政府」であつた「自己責任」となつてしまつてしまつています。その流れを変えていくことは大変なことです。社会保障が充実するかどうかの不安が消費を滞らせ、景気を悪化させることにつながつてしまつてしまつています。国が国民にしっかりと説明をして理解を得る努力をしなければなりません。例えば、党内で議論を始めたところですが、幼稚園から大学卒業までの教育をすべて無償化にする、どれだけの財源が必要か。実は消費税二・五%分です。財源問題も含めてしっかりと説明しながら理解を得る努力をしていくことはできないだろうかと思つています。人への投資」といふ考え方が必要です。

—現文科大臣はどういつた方なのでしょか？
 教職員の多忙化については理解を示す人です。自民党の中の「教職員の多忙改善チーム」の事務局長をやつていました。そういった部分では一致がはかれるのではないのでしょうか。偏向教育や政治的中立についてはこれから確

—さまざまなきことがありますが、今、社会全般で学校現場は忙しいという理解が広がつてつあります。
 直近で言えば三月に水岡議員と一緒に教職員の多忙化を質問しました。その成果が六月一七日に出された「学校現場における業務改善の適正化に向けた」という業務改善のためのタスクフォースの通知です。これは今までの文科省にはなかつた取り組みであり、一歩前進がはかれたのではないのでしょうか。これをさらにすすめていくには委員会の中で具体としてどう実現していくのかを質していくことが大事です。その

—現場では「教員免許更新制」をなくしてほしいという声は強くあります。
 そもそもこの制度ができたこと自体がおかしいと思つています。どうして医師免許などは更新制ではないのに教員免許は更新しないといけないのかというところです。再任用を希望する人が受講しなくてはならないといったことや臨任・非常勤が見つかりにくくなつているといったことも課題として明らかになつてしまつています。

—小学校での英語の教科化も課題になります。
 例えば外国で生活経験のある方や英語に長けた方を面接などで試験をして、特別な教員免許を与えようという考えが出てきています。教員免許とはそんなに簡単に与えてしまつてよいものでしょうか。前段の教員免許更新制の話とはずいぶんかけ離れた話のように感じます。免許の重さをどのように考えているのでしょうか。免許を更新しないと失効するといふ毒だけは絶対抜かないといけません。

—次に生活の政策について伺います。子育てのことについて、医療費助成が自治体によって差があるため、安心して子育てできるために国としてとりくめることは？
 これはまず国がやるべきことだと思つています。どこで生活していても等しく医療を受けられなくてはなりません。私は「国民皆保険制度」は日本が誇る制度だと思つています。一極集中型ではなく、それぞれの地域で育ち、仕事をしていくためには社会保障や教育が整備されなくてはなりません。地域の活性化につなげていくためにも、等しく医療を受けられる制度を国が保障する必要があります。



ちょっとした笑いもあふれます

—本日はさまざまなお話を聞かせていただきありがとうございます。これからも学校現場の声をしっかりと議会に届けてくださるよう、よろしくお祈りいたします。
 何より学校現場で奮闘されているみなさんが第一ですので、そのために私でもできることをしっかりととりくんでいきます!

ちょっと拝見地区教組

三浦半島地区教職員組合

「青・組」のとりくみ

三教組では組織拡大、とりわけ青年層の加入促進が重点課題です。二〇一〇年度からは全分会に「青年・組織拡大担当」を置き、新採用者や未加入者へのはたらきかけを強化してきました。今年度はアクション・プロジェクトとして新採用者・未加入者の状況を分会と執行部が共有し、早期加入につなげるとりくみを行っています。また、執行部の既存の活動も見直し、より青年層を意識したとりくみを行っています。

○新採用者説明会

四月八日、新採用者を対象とした説明会を行いました。今年度も第一回青年・組織拡大担当者会と同じ時刻に、教育会館内で実施しました。こうすることで、担当者が新採用者に「一緒に行こう」と声をかけやすくなり、多くの新採用者の参加につながりました。説明会では、教職員組合の柱となるとりくみや青年層でとりくんできた企画を紹介しました。その後、自主編成講座を開き、四月の懇談会に向けて保護者を学級の応援団にするためのポイントを学びました。説明会の後は「ごえんの会」(懇親会)で、参加者同士の交流を深めました。

○青年層組合員学習会

七月三日、これからの組合活動を支える青年層組合員を多く募り、日頃の組合活動や教育実践を見つめ直し、リーダーとしての意識と知識を養う目的で学習を深めました。第一部では、まず教職員組合が法的に行える交渉と、これまで築き上げた関係性からできている交渉について学びました。その後、グループごとに各分会の情報を共有しながら予算要求書をつくり、発表をしました。執行部は、先に学んだ交渉をふまえながら、要求書作成上のポイントとなる部分について解説を加えました。第二部では、平和ツアーで訪れた広島の実験者の話をVTRで鑑賞し、これからの平和教育について考えました。組合を通してくり返し現場の声を届けていく大切さや子どもを中心とした教育実践を幅広く学び、積み上げていく必要性を感じた学習会となりました。

○運営委員会企画

各分会の青年・組織拡大担当者の中から運営委員が選出され、執行部とともに、三教組全体に関わるイベントを企画・運営します。今年度は、各イベントにウェルカム・プロジェクトという企画を入れ、新採用者・未加入者にも多く参加してもらい、仲間とのつながりの大切さを感じられるきっかけとなるよう企画・運営をしています。

・ダイツ体験
六月一七日、懇親会部門企画とし



各分会の青年・組織拡大担当者の中から運営委員が選出され、執行部とともに、三教組全体に関わるイベントを企画・運営します。

て、久里浜「ディーブブルー」で行いました。一六人が参加し、分会をこえてチームをつくりました。対戦がはじまると、お互いがすぐに打ち解け、白熱しつつも楽しい時間を過ごすことができました。

・おさかな料理教室

七月九日、学習会部門企画として、久里浜コミュニティセンターで行いました。一九人が参加し、魚のさばき方や調理法をプロの方に伝授していただきました。刺身やフライなどを調理し、おいしくいただきました。「ぜひ家庭でも挑戦してみたい。」との声もありました。

・フットサル大会

八月二七日、スポーツ部門企画として、西体育会館で行いました。八〇人が参加し、白熱したプレーの連続に大きな歓声がわき上がっていました。分会の垣根をこえて互いをたたえ合う姿には、スポーツ交流の楽しさとさわやかさを感じられました。

・陶芸体験

九月一〇日、フィールドワーク部門企画として、三浦海岸「陶工房たまご」で行いました。

一七人が参加し、講師の先生にきめ細やかなアドバイスをしながら、皿やカップなどを作りました。作品への思いを語りながら穏やかな時間を過ごすことができました。



○地区・ブロックリーダー企画

運営委員とは別に、十数分会で組織されるブロックのリーダーが選出され、ブロックごとにさまざまなとりくみが企画されています。その一部をご紹介します。

・ブロック懇親会

六月二四日、三浦地区では、懇親会が行われました。一七人が参加し、「名前ピンゴ」では、互いの名前を呼び合うたびに拍手が起るなど温かい雰囲気の中で交流を深めることができました。

・みかん狩り&BBQ

十一月三日、逗葉地区では、みかん狩りとBBQが行われました。一六人が参加し、三浦市内の観光農園でみかん狩りを楽しんだ後、BBQをしました。おいしい食材を前に会話もはずみ、楽しい時間を過ごすことができました。



各分会の青年・組織拡大担当者の中から運営委員が選出され、執行部とともに、三教組全体に関わるイベントを企画・運営します。

原子力空母ロナルド・レーガン横須賀配備抗議！ 母港撤回を求める10・1全国集会

昨年10月1日の早朝にアメリカ海軍原子力空母ロナルド・レーガンが入港してから1年、母港化撤回を求める全国集会が横須賀ヴェルニー公園で開催されました。全国から約2,500人が集まり、神教組も七地区教組と連帯して、約300人が参加しました。集会後のデモでは「原子力空母いらない」「基地はいらない」等をコールし、米軍横須賀基地ゲート前を通過して横須賀中央駅付近まで行進しました。

1973年の空母ミッドウェイ母港化から43年、原子力空母が2008年に配備されてから8年が過ぎました。原子力空母には福島第一原発1号機と同規模の原子炉が搭載され、放射能漏れなどの事故を起こせば首都圏全体に被害がおよぶ危険性があります。原発に適用される日本の安全基準は、米軍原子力空母には適用されません。また、原子力空母には、爆薬と戦闘機用ジェット燃料を大量に積んでいることから原発以上の危険を内包しています。

さらに、米海軍の攻撃機能強化、艦載機の爆音被害、墜落事故、核疑惑、米軍住宅増設、多発する米軍の犯罪など、数々の問題をかかえてきました。2015年には基地に最新鋭イージス艦が追加配備され、艦船は12隻体制となり、戦後最大級の配備となっています。さらに2017年までに2隻のイージス艦を追加配備としており、ますます基地機能強化がすすみます。日米軍事一体化への懸念と「海に浮かぶ原発」が平然と存在する国民軽視の安保体制に対して、反対の声をあげ続けていく必要があります。



戦争法廃止！ 9.19国会正門前行動 9.22さようなら原発さようなら戦争大集会 安倍政権の暴走を止めよう！ 10.19総がかり行動

あの安保法制強行採決から1年が経ち、私たちは廃止を求めてこれまでも集会に参加してきました。しかし、南スーダンPKOへの「駆け付け警護」付与や「宿営地共同防護」、沖縄の高江ヘリパッド建設、辺野古新基地建設など、問題はさらに山積しています。改めて、このような安倍政権の暴走に対して反対の声をあげ続け、毎月19日の月例行動、そして「9.22さようなら原発さようなら戦争大集会」に参加しました。

19日行動では、沖縄での高江ヘリパッド建設における市民の抗議に対する機動隊の暴挙などの現地報告がありました。また「9.22さようなら原発さようなら戦争大集会」では、福島県飯館村からの現地報告、全国避難者の会、北海道平和フォーラム、澤地久枝さん(作家)、福島原発告訴団長、アーサー・ビナードさん(詩人)、木内みどりさん(俳優)、高校生1万人署名運動など、原発反対の多くの声を聞き、激しい雨の中、全国から9,500人が参加しました。神教組も七地区教組と連帯して約200人が参加しました。今後も、原発再稼働の動きや、安保法制の実効化、南スーダンへの駆け付け警護、沖縄基地問題などに注視し、反対の声をあげていくことが重要です。

